

こぐちパネル 超簡単施工法と注意事項

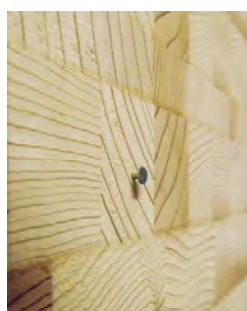
- 住宅において、壁面の多くは「耐火ボード」なる素材でできています。そしてその厚みは大抵12.5ミリか15ミリでできています（9.5ミリの場合もあります）。
- そのボードの上に「こぐちパネル」をあてて、同封された釘で打ちつける方法です。同封してある釘は画鋲を長くしたような36ミリの長さですので、「こぐちパネル」の厚み=15ミリと壁面の厚みの=12.5ミリ（他の場合もあります）を足せば27.5ミリですので、通常の12.5ミリのボードであれば壁のボード裏に8.5ミリ飛び出すだけです。これくらいであれば壁面内に通っている電気のFケーブル線などに干渉することも考えずらいはずです。

① 「こぐちパネル」を張りたい場所に押し付けて、その四隅+真ん中の5か所くらいに釘を打ちます。



それだけで完了です。

② 「こぐちパネル」を複数枚張る場合は「目透かし張り」と言って、「こぐちパネル」どうしを少し離れた張り方がキレイです。少し離すためのスペーサーを同封いたしますので、そのスペーサーを使って「こぐちパネル」どうしを均等に離せば美しく仕上がります。

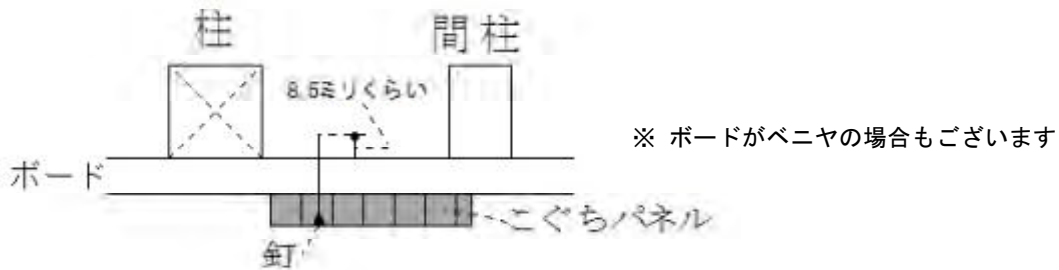


③ 「こぐちパネル」は板目材の100倍のスピードで湿度変化時に対応します。という事はそれだけ形状変化も激しいという事です。反ったり…戻ったりが激しくなります。写真は釘が浮いてきたのではなく、湿度変化時に釘がここまで戻されるくらいにかつて「こぐちパネル」が反ったことがあったという事です。そして今は元に戻ったという事です。そしてそれはそれくらいたくさん「こぐちパネル」は空気浄化と鎮静効果物質の放出を繰り返している証明でもあります。壁面がボードであれば、こういった場合は指で釘の頭を押せば出っ張った釘は引っ込みます。

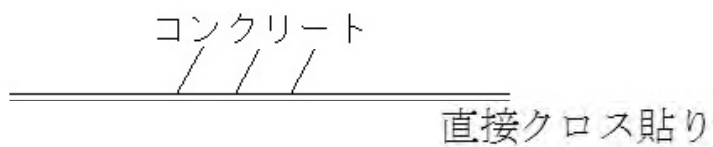
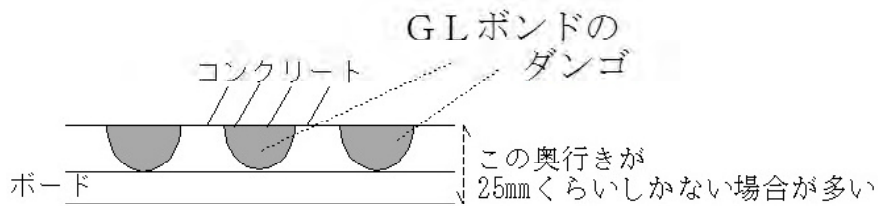
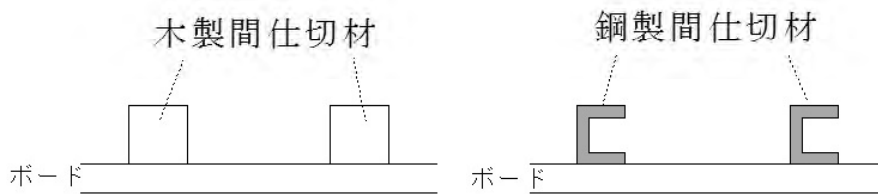
- これ以外にも張り方はいろいろございます。プロの方に頼むなりされれば、下地の状況を想定して様々な取り付け方を実践してくれると思われれます。
- 通常は電気の線は壁面内に縦横無尽に這わされているようなモノではありませんが、「こぐちパネル」を張ろうとしている場所の裏に電気のFケーブルなどが無いかをご確認してから施工してください。

【壁裏側の断面図】

● 木造・鉄骨造など



● 鉄筋コンクリートの場合



※ 壁裏の間仕切り材が木質であれば釘は打てますが
鋼製やコンクリートの場合は、釘以外のプロの施工が必要になってきます